

平成 29 年度 公開園・校指導案

子どもを主体とした保育 公開園 【八雲保育園】

平成29年9月12日(火) 9:00~11:00  
八雲保育園 0・1歳児 つくし組 (男児5名 女児7名) 担任 伊田 恵

【子どもの姿】

<生活の特徴>

- 着脱では、できない部分を援助されながら、自分でしようとする。
- 服がぬれると、自分で着替えを出してくる。
- スプーンを使って食事をし、こぼすことも少なくなる。
- タイミングが合うと、トイレで排尿できる。
- 上着から、自分で頭を出そうとする。
- こぼしながらも手づかみや、スプーンを使い自分で食べようとする。
- コップを両手でもち、お茶を飲むとする。
- オムツ交換の際、つかまり立ちをし、自分から履こうと足を動かす。
- マグを使用し、保育士の援助を介して食事をしている子もいる。

(1歳児)

(0歳児)

<発達の特徴>

- 一語文や、指差しや身振りなどを一緒に用いて、自分の思いや欲求を伝えようとする。
- 問いかけに対して「うん」「いや」と言葉で答えたり、首を振ったりする。
- 「□□ちゃんの名前！」と友だちからおもちゃを取り上げようとする等、自分の名前や自分の所有物(と思っている物)をはっきりと示そうとする。
- 友だちが遊んでいる様子に目を留めて近づき、同じ行動をしようとする。
- 運動機能が徐々に発達し、興味を持った人や物を目標に、自分で移動して近づくことができるようになる。
- 大人に何か要求したい時に、喃語を発して注意をひこうとする。
- 「指差し」や「物の受け渡し」など、物を介して他者とやりとりをしようとする。

(0歳児)

<遊びの特徴>

- 自分から棚にあるおもちゃを取り出し、遊びを楽しんでいる。
- 一人一人お気に入りのおもちゃがあり、くりかえし遊んだり、「できた」と自分の中で満足感を感じた時は「見て！」とアビールをする姿がある。段ボールで出来た仕切りを持ってきて、一人の空間を作ろうとする姿も見られる。
- 身近な生活用具を用いて、見立てあそびを楽しんでいる。
- キッチンにあるものや袋をカゴに入れ置いていると、自分からお気に入りのものを取り出し、遊ぶ姿がある。袋を持って「バイバイ」と買物に出かけたり、包丁を使い料理をしたりと、それぞれお気に入りの遊びを楽しんでいる。横に机とイスを設定したことによって、そこに座って作ったごはんを食べたり、「どうぞ!」「あー!」と隣や対面にいる友達に声をかけたり、やりとりをするようになった。
- 運動用具で遊ぶ中で、斜面や階段などを登ったり下りたりして遊ぶ。
- 入園当初と比べ歩き方も安定してきたことから、7月より、野越え山越えの運動用具を保育室に設定している。毎日遊んでいることにより、斜面や階段などの不安定な場所でも、少しずつ軌重にはい上り上り、姿勢を変えて移動するなど、足腰を自分で調整する力もついてきた。

- 0歳児はまだ歩行ができない子も、まわりからの刺激をうけ、ハイハイで登ったり下りたりしようとする姿がある。
- 絵本を見たり、保育士や友達とお気に入りのふれあいあそびを楽しんでいる。
- お気に入りの絵本を「よんで」と持ってきたり、手を差し出し、好きな手あそび・ふれあいあそびを、身振り手振りをいりくエストする。その中で絵本に出てくる登場人物になりきって遊んだり、歌を聴くと表情が笑顔に変わったり、近くにいる友だちと手をつないで遊びはじめる姿がある。
- 2歳児クラスが遊んでいる姿に興味をもち、輪の中に入ろうとする。
- 1歳児の月齢が高い子どもたちは、2歳児クラスの遊びに興味をもち、2歳児がいる保育室や園庭などに行きたがる姿がある。砂場に自分から出かけていき、スコップで砂をほったり、容器に砂を入れて遊んだりしている。粘土あそびも最近のお気に入り、2歳児のマネをして、こねたり、ちぎったりと形の変化を楽しんでいる。

<ねらい>

- 保育士と十分に関わり、安心感をもって生活する。
- 全身を使ったあそびや、一人あそびを楽しむ。
- 様々な素材に触れる中で、形の変化や感触を味わう。

<内容>

- 棚からお気に入りのおもちゃを出してきて遊ぶ。
- 袋にごちそうをつめて保育室を探索する。包丁を用いて野菜を切ったり、机に並べてあそび、そを食べる真似をしたり、一緒に座った子と顔を見合わせたりして遊ぶ。
- 斜面や階段を登ったり下りたりする。
- 保育士や友達と歌を聴き、それに合わせて手足を動かそうとする。絵本を保育士のもとへ持ってきたり、自分で見たりする。
- 2歳児の真似をして粘土をこねたり、ちぎったりする。

<内容選択の理由>

- ・ひとりひとりが落ち着いた空間の中で、指先を使ったあそびを楽しんでほしい。
- ・友だちやまわりの環境から様々な刺激をうけ、「やってみよう」という気持ちにならしてほしい。
- ・いろいろな素材に触れることの経験をつんでほしい。

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者のねらいと援助	評価の観点
9:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・棚に子どもたちの年齢に合わせたおもちゃを置いておく</li> <li>・段ボールを子どもたちが自由に手に取れる場所に置いておく</li> <li>・洗たくばさみ</li> <li>・S字フック</li> <li>・マジックテープ</li> <li>・穴通し</li> <li>・ボール転がし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育室内を移動し(ずりばい・はいはい・歩行)興味のある所へ行く</li> <li>・段ボールのしきりを持ってきて一人の空間を作って遊ぶ</li> <li>・洗たくばさみや動物のカードや段ボール、自分の服に挟んで取り付ける</li> <li>・S字フックを段ボールにかけたり、S字フック同士をつなぎ合わせたりする</li> <li>・マジックテープを貼り付けたりはがしたりする</li> <li>・穴に向かってひもを通そうとし、容器の中がいつぱいになるまで通す</li> <li>・ボールをレールにのせ転がしたり、穴に入れようとする</li> <li>・おもちゃの入ったカゴをひっくり返したり、おもちゃを口に入れたりなめたりして確かめようとする</li> <li>・友だちの遊んでいるおもちゃを欲しがり、取るようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に遊べるように床に落ちているおもちゃは、その都度棚に片付ける</li> <li>・段ボールにS字フックや洗たくばさみなどをつけておく等の仕掛けをし、子ども達が遊び出せる環境を作る</li> <li>・「楽しい」「できた」といった肯定的な感情を共感し合ったり、保育士も一緒に遊んだり、子どもにとって充実した遊びの場へとつなげていけるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のあるおもちゃや場所を見つけてぼうとしているか。</li> <li>・自分から興味のあるおもちゃに手を伸ばし、感触を確かめようとしているか</li> <li>・手先や眼力を使い遊んでいるか</li> <li>・自分の欲求を言葉や身振り手振りで表現しようとしているか</li> <li>・落ちたりなどの危険がないように、運動用具の側に保育士が一人つくようにする</li> <li>・「こっちはよ〜」と子どもが目を見て声をかけ、楽しみや目標をもって行動できるようにする</li> <li>・落ちたりなどの危険がないように、運動用具の側に保育士が一人つくようにする</li> <li>・不安定な場所でも、足腰を自分で調整しながら身体を動かしているか</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいあそび</li> <li>・ウッドデッキ</li> <li>・ブランコ</li> <li>・トンネル</li> <li>・ぶらぶら橋</li> <li>・すべり台</li> <li>・生き物を見る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物にまたがったり、足を踏み乗ったまま移動したりする</li> <li>・保育士の「前にすすむよ」「バックオーライ」の言葉を聞いて、乗り物を動かす</li> <li>・保育士にだっこを求めたり、ひざに座ったりして、スキシンツップを求めたいこと、してほしいうことを身振りや簡単な言葉で伝えようとする</li> <li>・歌を歌うと喜び、一緒に歌おうとする</li> <li>・絵本を持ってきて「よんで」とアビールをする</li> <li>・友だちが使っている遊具(特にぶらんこ)を横取りしようとする</li> <li>・ウッドデッキにいる虫を見つけると、追いかけたり、指差しや言葉で保育士や友だちに伝えたりする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイクにまたがって子どもと一緒に「ブーン」と声を出したり、タイミングよく運転の掛け声をかけ、子どもたちが乗り物に乗るようにする</li> <li>・1対1の関わりを大切にし、スキシンツップをはかる</li> <li>・子どもの要求を理解し、ひとつひとつ丁寧に言葉を受け止める</li> <li>・横放がみられる際にはその姿を受け止め、視線を合わせ「いいね」と伝える</li> <li>・子どもの興味や関心にあつた絵本を用意しやりとりを楽しめるようにする</li> <li>・危険がないように遊びを見守る</li> <li>・順番待ちの歌えうたを子ども達と歌い、楽しく順番が待てるようにする</li> <li>・「動いたね」「飛んだね」等虫の動きと一緒に観察し、言葉にして返していく</li> <li>・虫との出会いに積極的に関わっているか</li> </ul>	

子どもを主体とした保育 公開園 【八雲保育園】

平成29年9月12日(火) 9:00~11:00

八雲保育園 2歳児 つくし組 13名 (男児 8名 女児5名) 担任 奥村 真由子

【子どもの姿】

〈生活の特徴〉

- 保育士に誘われ、トイレで排泄をする。トレーニングパンツに興味を持ち、履くことを喜ぶ。
- 身の回りのことを、自分でしようとする姿が多くなる。
- 食事を自分で食べようとする姿が多くなる半面、他の子の様子に気をとられ、途中で手を止めたり、遊びながら食べたりする。

〈発達の特徴〉

- 朝の仕度や給食後の片付けなど「これは？」と保育士に尋ねながら、自分の身の回りのことを自分でしようとする意欲が高まっている。保育士が手伝おうとしたり、他の子がやろうしたりすると「○○がする」「自分で!!」と強く自己主張する。
- 友達の間で遊んでいる事に興味を持つようになり、友だちがカゴを持ちお買い物ごっこをしたり、赤ちゃんの人形のお世話をしたりしていると、同じことをしたいという気持ちから、おもちゃの取り合いになりトラブルになる。
- 「先生、絵本よんで」「運動会(ダンス)したい」と自分のしてほしい事や思いを伝えたり、「家でな、虫おったんや」「お祭りで花火見た」など、身の回りの出来事を保育士に言葉で伝える事を喜ぶ。

〈遊びの特徴〉

- 小麦粉粘土
- 感触を味わうだけでなく、手のひらに乗せクルクル手を動かしたり、机の上で手を前後に動かして伸ばしたり、クッキーの型で型をとったりと、指先や手のひらの動きや力加減を調節しながら形を作ることを楽しんでいる。

○ごっこあそび

お店屋さんコーナーでは、お客さん役になり商品をかごや袋に入れたり、店員さんになりレジ打ちしたり、ままごとコーナーではお母さん役になり料理を作ったり、赤ちゃんのお世話をしたりと、身近な大人の行動を真似して遊ぶ姿が見られる。又、その中で言葉でのやりとりを再現する姿も増えてきている。

○砂や水と関わって遊ぶ

水の入ったバケツに砂を入れて沈んで見せたり、水の色が変わったりしていくことに気づき、何度も試している。又、型に砂をつめ、ひっくり返しまく形が出来ないと、納得いくまで繰り返すなど、自分の動きかけにより、対象が変化していく様子に興味を持ち関わる姿が見られる。

○身体を動かして遊ぶ

野を越え山越えなどバランスの悪い道を歩いたり、走ったり、高い所から跳びおりたりなど基本

〈ねらい〉

- 保育士が仲立ちをし、ごっこあそびの中で言葉のやりとりを楽しむ。又、身近な大人の言葉や行動を模倣したり思い思い浮かべたりしごっこあそびを楽しむ。

- 砂に触れ、その感触や変化を楽しむ。

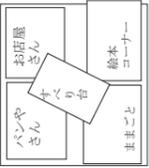
- 自由に身体を動かすことを楽しむ。

〈内容〉

- 小麦粉粘土を楽しむ。
- ごっこあそびを楽しむ。
- 砂あそびを楽しむ。
- 運動あそびを楽しむ。

〈内容選択の理由〉

- ・模倣することが大好きな時期であるため、生活再現の場としてのコーナーを準備している。その中で思う存分真似ややりとりを楽しんでいる。
- ・外の環境は何にも勝る素材である。それに触れ体験を積み重ねてほしい。
- ・毎日の運動あそびの経験はこの時期欠くことの出来ない活動であり、その中で個々の成長を見守っていききたい。

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育士の援助と配慮	評価の観点	
9:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画面シール</li> <li>・ カゴ</li> <li>・ カバンかけ、等</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登園する</li> <li>・ 鞆園する</li> <li>・ 個々のペースで保育室に入室してくる</li> <li>・入室した子から朝の支度を保育士と一緒にする</li> <li>・ 支度がすんだ子から保育士に促されトイレに行ったり、パンツに履き替えることを喜び、自分からトイレに行ったりする</li> <li>・ 好きなコーナーへ行き遊びはじめる</li> <li>・ 感触を味わったり、丸めたり、伸ばしたりと、形の変化を楽しむ</li> <li>・ 出来た物を嬉しそうに保育士に見せる</li> <li>・ パン屋さんのコーナーに出来た物を並べる</li> <li>・ 粘土や道具の取り合いになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登園時の表情や声などから、子どもの様子や体調を読み取る</li> <li>・ 笑顔で挨拶をし、個々のペースで入室できようう子どもの様子を見守りながら受け入れていく</li> <li>・ 様子を見ながら手伝ったり、言葉がけをしたりしながら、朝の支度を一緒にする</li> <li>・ 支度がすんだ子から、トイレに誘いパンツに履き替えるよう個々に応じて援助する</li> <li>・ 一人ひとりで作ろうとする姿を認め、ほめたり、共感したりする</li> <li>・ 手の動かし方や作り方など、モデルを見せながら、子どものやりたい気持ちを引き出していく</li> <li>・ お互いの気持ちを受け止めながら言葉で代弁する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感触を味わったり、丸めたり、伸ばしたりして形の変化に興味を持っていたか</li> <li>・ 保育士が仲立ちすることで、ごっこあそびや言葉のやりとりを楽しむできたか</li> <li>・ 身近な大人の真似をして遊んでいるか</li> </ul>	
9:45	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごっこあそび</li> <li>・ ままごと</li> <li>・ キッチン、机、フライパン、鍋、お皿、コップ、フライ返し、おたま等</li> <li>・ お店屋さんカゴ、商品、レジ袋、家庭やお店屋さんのイメージがしやすいよう棚や道具を配置する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 型に砂をつめ、ひっくり返して遊ぶ</li> <li>・ 道具を三角屋根に持って行き料理を作り、ごっこあそびをはじめる</li> <li>・ 大きい子(幼児)がしている遊びに興味を持ち、ジッと見たり、真似をしたりする</li> <li>・ パランスの悪い道を歩いたり走ったり、跳び下りたりする</li> <li>・ 身近な遊具に興味を持ち、それらを使い身体を動かすことを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動あそび</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外へ出かけはじめる</li> <li>・ 型に砂をつめ、ひっくり返して遊ぶ</li> <li>・ 道具を三角屋根に持って行き料理を作り、ごっこあそびをはじめる</li> <li>・ 大きい子(幼児)がしている遊びに興味を持ち、ジッと見たり、真似をしたりする</li> <li>・ パランスの悪い道を歩いたり走ったり、跳び下りたりする</li> <li>・ 身近な遊具に興味を持ち、それらを使い身体を動かすことを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊んでいたおもちゃや子どもと一緒に片付け、外に行く用意をする</li> <li>・ 子どもの気持ちに共感し、丁寧に答えていく</li> <li>・ 様子を見守りながら、一緒にごっこあそびに参加し、雰囲気を楽しまないようにする</li> <li>・ 見守りながらやりたい気持ちを確認、遊びに入りやすいよう言葉がけをする</li> <li>・ 危なくないよう見守りながら、自分でやろうとする姿を認める</li> <li>・ 様子を見ながら必要であれば援助する</li> <li>・ 身近にある素材に興味をもち関わっているか</li> </ul>

子どもを主体とした保育 公開園 【八雲保育園】

平成29年9月12日(火) 9:00~11:00  
八雲保育園 3歳児 たんぽぽ組 17名(男児9名 女児8名) 担任 岸田 紀子 岡野 桂子

【子どもの姿】

〈生活の特徴〉

○1日の生活の流れの見直しを持ち、「今、何時?」「ご飯の時間や」「おやつ?」と時計を意識し気付き姿がふえてきた。  
○排便は定期的に声かけはするが、自分のタイミングでトイレに行けるようになってきた。

〈発達の特徴〉

○子どもも時には自分の好きな遊びを見つけて、楽しめるようになってきた。  
○クラスの中だけでなく、他のクラスへ行き大きい子の遊びに興味を持ち、そばで様子を見たり、遊びに加わったりする姿も見られる。  
○製作あそびに興味を持ち、ハサミ等道具を使ったり細かいビーズ等を扱ったりできるようになり、形あるものを作りたい意識が出て来た。  
○大きい子に見られる。その一方で、「○○ちゃんみたいになりたい」と友だちを意識し、同じ物を持ち「一緒にあそぼ」と声をかけ遊ぶ姿がある。

〈遊びの特徴〉

○色あそび  
花がらや葉をすりばちとすりこぎでつぶし、色出しをする。以前はたくさん量を作ることに喜びを感じ、水の量もあふれる程そそぎ入れていたが、大きい子の姿に目が向くようになり計量カップからコントロールしながら水を加えるようになる。濃くあざやかな色水が出来上がる度に「○○ジュース出来た」とまわりの方だちや保育士に伝え、コップに移しかえ、ジュース屋さんの品物に加えている。

○泥あそび

ボールに石けんをけずったものと水を入れ泡だて器で混ぜる。水加減と石けんの量、泡だての力強さがとれていない為、毎回出来上がりにはらつきがある。しかし、混ぜる事が楽しく、石けん泡に入れたり、土を入れ色の変化を楽しんだり、チョコクリームや抹茶クリームを作ったりして楽しんでいる。大きい子に泡を分けてもらい、お店屋さんごっこのケーキ作りにも参加している。  
○お店屋さんごっこ

食のクリーム、色水ジュース、泥だんごなどを使い食べ物屋さんごっこをする。食べる人、作る人と役割を分担しているが、3歳児は作り役が多い。型ぬきを使ったたこ焼きづくりでは、自然物を野菜やタコに見立ててトッピングし、せんまいどおしてたこ焼きをひっくり返す事を楽しんでいる。



そばでは、大きい子の仕事ぶりを見て、真似しようともしている。

○砂あそび・とゆでのだんごころがし  
型ぬきが出来るまで何度か山を作ったり、道を作ったり水を流し入れたり、それぞれのペースで楽しんでいる。  
とゆの坂道にだんごを転がしていく様子や、途中でくずれていく様子を見て、繰り返しチャレンジしている。泥だんご他、葉っぱや石ころなど、球状のものを探してきて、転がしたり流したりして遊んでいる。

○舞台あそびごっこ  
「この曲かけて」とリクエストし、音楽に合わせて自由に表現しながら動き、キャラクターになりきる。又、マイクを持ち、カラオケのように熱唱し舞台にあがっている。

○お医者さんごっこ・まごごと  
白衣を着て「どこがえらいですか?」とドクターになりきり、病人役の子をペットに寝かせて手当てをする。カルテを書くふりしたり、診察券を手渡ししながら病院への呼び込みをする。注射は相手の反応をみながら対応をかせ、やさしい言葉をかけ、強めに何本も注射をして重病であることを表現して遊んでいる。包帯巻きも両手で指先をコントロールしながらゆっくと巻き付けて遊んでいる。包帯巻きも両手で指先をコントロールしながらゆっくと巻き付けて遊んでいる。なかなかに難しい作業のようだが懸命に取り組んでいる。

○製作あそび  
アイロンプズをペットボトルのフタに入れ、別のペットボトルでふたをして音の鳴るおもちゃを作る。

箱やペットボトルをハサミで切る等、いろんな素材を使って切り刻むことを楽しんでる。又、大きい子の姿を見て同じ作品を作ろうと素材を探してきたり、保育士に○○がほしいと伝えたり、年長児や保育士に手伝ってもらいながら作品作りを楽しんでいる。



〈ねらい〉

○自然物にふれ、手を加えることにより変化していく面白さや物の感触を味わう。  
○好きな遊びや興味ある遊びを通して友だちや大きい子と一緒に遊ぶ楽しさを共有する。

〈内容〉

○泥を使ったまごごとあそびを楽しむ。  
○石けんを泡だててクリームを作り、泥と組み合わせたりして遊ぶ。  
○自然物を使って色水を作ったり遊ぶ。  
○飛行機を折ったり、飛ばしたりする。  
○ごっこあそびを楽しむ。  
(内容選択の理由)

・夏に泥、土、砂、水で感触あそびを十分に楽しんできた。本時の遊びはその延長線上にあり、泥の感触あそびから形を変化させ、ごっこあそびをするまでに至った経過がある。  
・年長、年中児の遊びをモデルに、したい遊びや関わりを深い相手をきっかけに仲間に加わり、遊んでみようとする姿がみられる。その中でやり方を教えてもらったり、自分で試したりする姿をみとりたい。



時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育室前で出迎える</li> <li>子ども時間</li> <li>したい遊びがはじめるや、遊びの様子を見たり、場所や決まった場所に道具を置く</li> <li>泡あそびに必要な道具一式</li> <li>石けんに入れる水(カップ)</li> <li>道具を洗う水(バケツ)</li> <li>作品を飾る机</li> <li>色水あそびに必要な道具一式</li> <li>色水に入れる水(カップ)</li> <li>道具を洗う水</li> <li>作品を飾る机</li> <li>紙質のちがう紙</li> <li>固い紙</li> <li>やわらかい紙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登園する</li> <li>棚に荷物を入れる</li> <li>帳面にシールを貼る</li> <li>タオルを出す</li> <li>好きな遊びをする</li> <li>泥を使ったまごごとあそびをする</li> <li>自分の使いたい道具を出し土を入れてかき混ぜたりしながら遊ぶ</li> <li>作った料理を保育士に勧めたり、友だちとやりとりを楽しんだりする</li> <li>石けんと水を泡だててクリームを作り泥と組み合わせたりしている</li> <li>年上の子の様子を見ながら真似をしようとする</li> <li>自然物を使い、色水を作ったり遊ぶ</li> <li>年上の子の様子を見ながら真似をしようとする</li> <li>飛行機を折って飛ばす</li> <li>年長児の様子を見てやってみようという気持ちで近づいてくる</li> <li>年長児に折ってもらった飛行機を高い所から飛ばす</li> <li>片付けをする</li> <li>自分の使っていた物を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶する気持ち良さを感じられる様、保育士が見本となら挨拶を行う</li> <li>自分のペースで準備する様子を見守りながらやり残し等あれば必要に応じて促しの声をかける</li> <li>元気に遊びに向かっている様子</li> <li>「何して遊ぶ?」「いろいろな遊びをしよう」等個々の楽しみを広げていく</li> <li>保育士も一緒に遊び、イメージを共有しながら、ごっこあそびの楽しさを伝える</li> <li>年長、年中児の中に入って遊ぶ姿を見守る</li> <li>きつかけを必要とする子には保育士が寄り添い仲立ちする</li> <li>年長、年中児の中に入って遊ぶ姿を見守る</li> <li>折ってみようとする姿を見守る</li> <li>完成を目標としている子に対しては個々に応じた支援を行う</li> <li>風車のふきながしの様子に気付かせ子どもと一緒に風車を体で感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔で挨拶しているか</li> <li>物を丁寧に扱っているか</li> <li>棚の中が整理整頓されているか</li> <li>泥の感触を味わっているか</li> <li>いろいろな形を変化させているか</li> <li>年長、年中児の遊びの中に入っているか</li> <li>年長、年中児の真似をして自分なりに試しているか</li> <li>自分から「やりたい」「教えて」と言葉で表現しているか</li> <li>折ってみようとする姿を見守っているか</li> <li>完成を目標としている子に、風車のふきながしの様子に気付かせ子どもと一緒に風車を体で感じる</li> </ul>

10:30	汚れた道具洗い用バケツ	元の場所に戻す	自ら進んで手伝う姿をほめると共に片付けることが楽しく感じられるように保育士も一緒に行う	片付けを楽しむか
	年少児ララックス タイム 指先おもちゃ お医者さんごっこ一式 舞台ごっこ一式	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚れたものを保育士や友だちと一緒に洗おうとする</li> <li>出来上がった物で、遊び続ける子もいる</li> <li>オリラックスタイム</li> <li>外での遊びを満足いくまで続けたり、室内の好きな場所へ移動したり、ララックスして過ごす</li> <li>遊戯室の雰囲気を感じ、年長、年中児の集団遊びに参加する子もいる</li> <li>室内のおもちゃや遊んだり、舞台ごっこを始める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土も一緒に遊ぶ</li> <li>もつとしたい気持ちを受け止めながら、明日につなげる言葉がけをする</li> <li>その日の子どもの遊びの様子を見て、隣機応変に対応し、外あそびを延長したり、室内での遊びに切り替えたりしながら過ごす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達それぞれにどこかで遊んでいるのか把握し見守る</li> </ul>



子どもを主体とした保育 公開園 【八雲保育園】

平成29年9月12日(火) 9:00~11:00  
八雲保育園 5歳児 さくら組(男児13名 女児9名) 担任 迫田 颯子

【子どもの姿】  
(生活の特徴)

○基本的な生活習慣が身につく、家庭から遊びに必要な物を持参したり、前日持ち帰った作品を再び持って来たり、見通しや期待を持ち、行動している。  
○時計を見て「もうそろそろ」という感覚を身につけ、生活の区切りを意識して、遊びの時間配分を考えている様子が見られる。  
○片付けや準備等、保育士の手伝いを進んでしようとしたり、「きょうだい」を気遣ったりする姿があり、年長児としての自覚と誇りを感じている様子がうかがえる。

(発達の特徴)

○色々な素材を利用し、小さな飾り等の細かな細工を施して製作を行い、身に付けたり、持ち歩いたりしながら遊びに使用する。  
○ふり返りの話を念頭におきながら、子ども時間の中、何を遊ぶのか考えたり、言葉に表したりしながら行動している。  
○おそろいの物を作ったり、同じ目的に向かって力を合わせたたり、小さい子に教えてあげたり、相手の気持ちや立場を理解した上での関係作りが見られる。

(遊びの特徴)

○身近にある物を組合わせて、イメージした物を作ったり、作った物で遊んだりする。  
・3名の女児がおそろいのバックを作り、持ち歩いて遊んでいた事をきっかけに「おしゃべり工房」という名称がつき、おしゃべり小物を中心とした作品作りが続いている。アクリルセサリやめがね、バック、ぞうり等身につける物を作ったり、バックの中身を承継させたりしながら遊びに使用し楽しんでいる。  
・「浮かぶと沈むの探検隊」でペットボトルに親しみ、水に浮かべる。水を吹く、水中メガネ等と利用の仕方が変化していった。又、由良川小学校との中間休み交流にて、5年生の部屋でペットボトルの風車を見つけたことで風車作りにも挑戦していた。そうした活動の中で、ペットボトルの光の反射に気付き万華鏡に利用したり、ペットボトル片に色づけし、レンジで加熱したり、色合いや光への興味にも広がりがみられる。又、フタからも様々なイメージの広がりが見られる。

○戸外にて環境に働きかけて遊ぶ

・泥・水・石けん・花・葉などを使い、ジュースやケーキ、たこ焼き等を作ったり、それを使ってごっこあそびをしたりする。そこに出来てないような、ビールやノンアルコールビール等無理な注文をし、やりとりを楽しむ姿も見られる。  
・色水あそびでは、完成の色を見通して作ったり、試す為の素材を持参したり何と何を混ぜるとどうなるか、日にちが経つとどうなるか、等にも気が付き一定の法則を持っていることにも気が付いている。



・小山の基地あそびでは、丸テーパーを土にうめ込み電車をイメージしている。  
・風車の回り具合を見ては、風の吹き方を感じている。又、その風を利用して、紙飛行機を作ったりは飛ばし、折り方や飛ばし方を工夫している。

○遊戯室で遊ぶ

・暗い部屋の暗さや、ライトを使っている遊びを楽しんでいる。  
・大型積木でサーキットを作ったり、コマ回し場を作ったり、お客さんを招待したり、自分達で作った物で遊びを広げている。

○4・5歳児合同で集団あそびをする。  
・リズムに合わせて、全身を使って身体を動かしながら、二人で合わせたり、ブリッジの高さやヤチホコの柔らかさを競ったりしている。

(ねらい)

○友だちと共通の目的をもって遊ぶ中で工夫したり、思いを伝えたりする楽しさを感じ、協力して活動を進めていく。  
○自然生物や自然現象に関心をもち、その美しさや特徴を感じながら遊びに取り入れる。  
○友だちと一緒に身体を動かしながら、力を出し切って遊ぶ楽しさを味わう。

(内容)

○おしゃべり工房にて自由発想で製作する。  
○石けん水を泡立ててクリームを作ったり泥と組み合わせたりして遊ぶ。  
○自然物を使い色水を作ったり遊ぶ。  
○紙飛行機を折ったり、飛ばしたりして遊ぶ。  
○集団あそびをする。

(内容選択の理由)

・毎日のふり返りを通して、子ども達は明日に向かって誰と遊ぶのか、何を遊ぶのかをイメージして登園している。その遊びの中で工夫したり、思いを伝え合ったり、協力したりする姿を見たりしたいと思う。  
その為に、子ども達の興味関心から続いている遊びを内容とする。  
・個々の遊びと同様、集団での活動も相手と合わせたり、競い合ったりしながら改めて自分自身を感じ、共に生活する周りの友だちを感じる場である。その中で力を出し切って遊ぶ事で、共に高め合える仲間である事を意識してほしいと願い、集団あそびを内容とする。



時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の視点
9:00	・保育室前へ出迎える  ・これまでの遊びをおしやれすころくでふり返れるようにする	○棚に荷物を入れる ・画面にシールを貼る ・タオルを出す  ○おしゃべり工房にて自由発想で製作する ・友だちに声をかけ合いながら、イメージした物を製作する ・作った物を身につけたり、作った物を使って遊ぶ	・挨拶する気持ち良さを感じられる様、保育士が見本となり挨拶を行う ・持ち物の始末を忘れずに丁寧に出るよう確かめさせたり最後まで見届ける ・今日したい事を意識して遊びに向かえるようにしたい遊びを尋ねたり必要なものについて聞いていたりする(前日) ・同じ遊びをしている友達と仲間であるという嬉しさを感じられるように、一緒に取り組んでいる様子を見守り、楽しそうな様子を言葉にしたり、楽しい気持ちに共感したりする ・可溶性の高い素材を準備し、製作キャビネットの身を整えておく ・たんぼほ組の舞台や遊戯室などに移動し、更に遊びを発展させられるように見守る	・笑顔で挨拶しているか ・物を丁寧に扱っているか ・棚の中が整理整頓されているか ・必要な物を用意したり遊びたい場所へ向かっていたりしているか ・名前を呼び合ったり笑顔で顔を見合わせたり話をしていたりしているか ・一緒に製作する友だち同士言葉交わし合っているか ・工夫して製作しているか ・遊びの場所を工夫しているか ・自分の要求を保育士に伝えているか ・イメージに近づける為に言葉交わし合い工夫しているか
	・子どもベースで存分に遊べるよう、前日のふり返りを基に、展開を予想し、準備を行う。	○おしゃべり工房にて自由発想で製作する ・友だちに声をかけ合いながら、イメージした物を製作する ・作った物を身につけたり、作った物を使って遊ぶ	・風車は風の向きを見比べられるよう色々な向きに飾る。又、素材による回り方の違いを感じるよう色んな素材を利用する 片付けの場所が意識できるよう置き場所を一定にし、定着させる	・風車の向きを見比べられるよう色々な向きに飾る。又、素材による回り方の違いを感じるよう色んな素材を利用する 片付けの場所が意識できるよう置き場所を一定にし、定着させる
10:30			○紙飛行機を折ったり、飛ばしたりして遊ぶ ・風車の回り方と紙飛行機の飛び方を見比べる  ○おしゃべり工房にて自由発想で製作する ・友だちに声をかけ合いながら、イメージした物を製作する ・作った物を身につけたり、作った物を使って遊ぶ	・必要なら自然物を自ら考え準備出来るよう見守る ・目的の色に向かっ努力する様子を認め励ます ・グラスに対しての量やそれに合うストローの長さ、美味しそうに見える為の工夫や、もてなす為の心遣いなどについて考えさせ考えについて実行した事を評価する ・風車の回り方に目を向けさせ、今日の風について気付けさせる ・子ども達の見本となることを意識しながら丁寧に付ける ・子ども達の作品を大切に扱う ・子ども達の見本となることを意識しながら身体を動かしたり、向きを変えたり顔を合わせたりが楽しめる ○集団あそびをする ・リズムに合わせて身体を動かしたり、向きを変えたり顔を合わせたりが楽しめる ○ふり返りをする ・子ども時間遊びをふり返り交流し合う

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の視点
	・子どもベースで存分に遊べるよう、前日のふり返りを基に、展開を予想し、準備を行う。	○おしゃべり工房にて自由発想で製作する ・友だちに声をかけ合いながら、イメージした物を製作する ・作った物を身につけたり、作った物を使って遊ぶ	・必要なら自然物を自ら考え準備出来るよう見守る ・目的の色に向かっ努力する様子を認め励ます ・グラスに対しての量やそれに合うストローの長さ、美味しそうに見える為の工夫や、もてなす為の心遣いなどについて考えさせ考えについて実行した事を評価する ・風車の回り方に目を向けさせ、今日の風について気付けさせる ・子ども達の見本となることを意識しながら丁寧に付ける ・子ども達の作品を大切に扱う ・子ども達の見本となることを意識しながら身体を動かしたり、向きを変えたり顔を合わせたりが楽しめる ○集団あそびをする ・リズムに合わせて身体を動かしたり、向きを変えたり顔を合わせたりが楽しめる ○ふり返りをする ・子ども時間遊びをふり返り交流し合う	・目的の色を作ろうと工夫しているか ・出来た色水について言葉で表現しているか ・風車や向きを感じそれを言葉にしているか ・紙飛行機の折り方や飛ばし方について工夫したり言葉で表現しているか ・片付ける物を取っておく物と分けようとしているか ・次の活動に見通しを持ち行動しているか ・リズムに合わせて身体を動かして向きの向きを変えているか ・相手と息を合わせているか ・保育士の言葉に對し自らの体験や考えを言葉や身振りや発しているか

子どもを主体とした保育 公開園 【永福保育園】

平成29年10月12日(木) 9:30~11:00

永福保育園 1.2歳児 (男児3名、女児6名) 担任 荒木由理子 村越千尋 南部祐希

【子どもの姿】

<生活の特徴>

- 手づかみやスプーンを使って、好きなものを意欲的に食べている。苦々な物もあるが、保育士に励まされたり、友達が食べている様子をみて食べてみようとする。
- 着脱は保育者に援助されながら“自分で”してみようとする。
- トイレに誘いタイムイングが合うと、トイレで排尿できる。
- また、オムツに出たことを知らせたりおむつを指さしたりして伝える。

<発達の特徴>

- 生活や遊びの中で、「自分で」「いや」「〇したい」と強く自己主張する。
- 自分のしたいこと、してほしいことを言葉や、指さし、身振りなどで伝える。
- 友達への興味関心が高まり、同じ遊びをしようとする。
- 友達を持っている物を欲しがったり、持っているものを友達に渡したくないなどで、喧嘩になる。
- 保育者や友達の行動や遊びを見て、同じことをしようとする。

<遊びの特徴>

- ごっこ遊び  
ボールやおなべに食べ物を入れて混ぜたり、「おいしい」と言って食べる真似をしたりする。人形をおんぶしたり、布団をかけて寝かせたり、日常において経験したことをごっこ遊びの中で、再現し見立て遊びを楽しんでいる。
- 絵本  
好きな絵本を持ってきて、保育士の膝に座って一緒に見ることを楽しむ。知っている動物などが出てくると「ワンワン」「ニャーニャー」と言ったり、また指差しをして保育士に答えてもらうことを楽しんでいる。
- 運動遊び  
広い場所を走りまわったり、スキー場の斜面を上り下りしたりする。また、ダンボールのトンネルをくぐったり、少しの段差でもジャンプをするなど体をつかった遊びを繰り返して楽しんでいる。
- ブロック遊び  
長くブロックをつなぐ事を楽しみ、タイヤをつけて車に見立て「ブッブー」と言いながら走らせて遊んでいる。
- 園庭遊び  
・ジャンクルジムに登りたい、竹馬に乗ってみたい、のぼり棒したい等、幼児が遊んでいる姿に興味を持ち、見よう見まねでやってみようとする。

保育者に援助してもらってやってみたり、「できた」の満足感を味わい「もう一回する」と繰り返したりする(2歳児)。

- ・水と土を混ぜて、泥の感触を楽しむ。  
カップに砂を入れたり出したりを繰り返して遊ぶ。幼児が泥だんごを作っている姿を見て、土をギョッギョッと握ったりして自分で作ろうとする。

<ねらい>

- 子どもの思いを受け止め安心して過ごせるようにする
- のびのびと体を動かし、好きな遊びを友達や保育者と一緒に楽しむ
- 遊びを通して友達や保育者との関わりを楽しむ

<内容>

- 体を動かして遊ぶことを楽しむ
- ごっこ遊びを楽しむ
- 砂遊びを楽しむ
- <内容選択の理由>  
○一人一人が安心して過ごせる空間の中で好きな遊びを見つけてほしい
- 見立て遊び、ごっこ遊びを通して友達や保育者との関わりを楽しむ
- 体を動かす心地よさ、楽しさを味わうことで自ら活動することの喜びを味わい、活発に遊んでほしい

<環境構成>

- ・好きな遊びに入れるよう各コーナーの遊びを整えておく。
- ・おもちゃ交換をすることが分りやすいようにしておく。
- ・トイレへ行ったらオムツ交換を自分で行うようにしておく。
- ・友達と一緒に遊ぶ準備をしておく。
- ・友達や保育者の動きを真似ながら曲に合わせて走ったり、ゆっくり歩いたりする。

9:30

・好きな遊びに入れるよう各コーナーの遊びを整えておく。

9:45

ランチルームにおやつを準備しておく。  
○体を動かす

10:00

○朝のお集まり

・したい遊びを始めやすいように、子どもが取りやすい場所に玩具や遊具を置いておく。  
○ままご遊び  
・ダンボールの仕切りでコーナーを作りままごの空間を楽しめるようにする。  
・椅子を用意しておく。

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者のねらいと援助	評価の観点	
9:30	・好きな遊びに入れるよう各コーナーの遊びを整えておく。	・好きなコーナーで遊ぶ ・ままご ・ブロック ・絵本 ・トレインカー ・オムツ交換をすることが分りやすいようにしておく。 ・トイレへ行ったらオムツ交換を自分で行うようにしておく。	・したい遊びがみつけれられるように友達や保育者が遊ぶ姿を見せたり遊びに誘ったりする。 ・「おしっこ出ているかな?」「きれいしようね」と声をかけ、オムツ交換をすることで心地よくなることを伝えていく。 ・“自分で”という思いを大切にしようとする。 ・楽しい雰囲気の中食べられるように関わる。 ・子ども達の見本となることを意識しながら体を動かす。 ・参加しにくい子は側で様子を見守りながら声をかけた手をつないだりする。 ・したい遊びが見つけられるように友達や保育者が遊ぶ姿を見せたり遊びに誘ったりする。	・名前を呼ばれたり保育者の声かけに振り向いたり反応を返してくる。 ・自分でやりたいという意欲が見られるか。	
9:45	○おやつ ランチルームにおやつを準備しておく。 ○体を動かす	・友達と一緒に遊ぶ準備をしておく。 ・友達や保育者の動きを真似ながら曲に合わせて走ったり、ゆっくり歩いたりする。	・積み木の一本橋をゆっくり歩いたり、ジャンプしておろる。 ・マットの山に登ったり、保育者のいる所まで走ったりする。 ・好きな遊具(ブランコ・三輪車・車等)を見つければ動かすことを楽しむ。 ・自分の思いを通そうと玩具の取り合いになりトラブルになる。	○運動遊び ・マット ・積み木 ・シャランチャラテ ・一歩のトンネル 戸外遊び ○固定遊具	・積み木の一本橋をゆっくり歩いたり、ジャンプしておろる。 ・好きな遊具(ブランコ・三輪車・車等)を見つければ動かすことを楽しむ。 ・自分の思いを通そうと玩具の取り合いになりトラブルになる。
10:00	○朝のお集まり	・おはようさん(朝のあいさつ)をする。 ・歌を歌ったり踊ったりする。 ・好きなコーナーへ行き遊び始める。 ・気に入った玩具を手に持ち、包丁で切ったり、ボールに混ぜたりする。 ・人形をおんぶしたりトンネルで寝かしつけたりする。	・参加しにくい子は側で様子を見守りながら声をかけた手をつないだりする。 ・したい遊びが見つけられるように友達や保育者が遊ぶ姿を見せたり遊びに誘ったりする。	・土を触って感触遊びを楽しんでいるか。	

時間	環境構成	予想される子どもの姿	保育者のねらいと援助	評価の観点
9:30	・好きな遊びに入れるよう各コーナーの遊びを整えておく。	・好きなコーナーで遊ぶ ・ままご ・ブロック ・絵本 ・トレインカー ・オムツ交換をすることが分りやすいようにしておく。 ・トイレへ行ったらオムツ交換を自分で行うようにしておく。	・したい遊びがみつけれられるように友達や保育者が遊ぶ姿を見せたり遊びに誘ったりする。 ・「おしっこ出ているかな?」「きれいしようね」と声をかけ、オムツ交換をすることで心地よくなることを伝えていく。 ・“自分で”という思いを大切にしようとする。 ・楽しい雰囲気の中食べられるように関わる。 ・子ども達の見本となることを意識しながら体を動かす。 ・参加しにくい子は側で様子を見守りながら声をかけた手をつないだりする。 ・したい遊びが見つけられるように友達や保育者が遊ぶ姿を見せたり遊びに誘ったりする。	・名前を呼ばれたり保育者の声かけに振り向いたり反応を返してくる。 ・自分でやりたいという意欲が見られるか。
9:45	○おやつ ランチルームにおやつを準備しておく。 ○体を動かす	・友達と一緒に遊ぶ準備をしておく。 ・友達や保育者の動きを真似ながら曲に合わせて走ったり、ゆっくり歩いたりする。	・積み木の一本橋をゆっくり歩いたり、ジャンプしておろる。 ・マットの山に登ったり、保育者のいる所まで走ったりする。 ・好きな遊具(ブランコ・三輪車・車等)を見つければ動かすことを楽しむ。 ・自分の思いを通そうと玩具の取り合いになりトラブルになる。	○運動遊び ・マット ・積み木 ・シャランチャラテ ・一歩のトンネル 戸外遊び ○固定遊具
10:00	○朝のお集まり	・おはようさん(朝のあいさつ)をする。 ・歌を歌ったり踊ったりする。 ・好きなコーナーへ行き遊び始める。 ・気に入った玩具を手に持ち、包丁で切ったり、ボールに混ぜたりする。 ・人形をおんぶしたりトンネルで寝かしつけたりする。	・参加しにくい子は側で様子を見守りながら声をかけた手をつないだりする。 ・したい遊びが見つけられるように友達や保育者が遊ぶ姿を見せたり遊びに誘ったりする。	・土を触って感触遊びを楽しんでいるか。



子どもを主体とした保育 公開園 【中舞幼稚園】

時間	環境構成	子どもの姿	保護者の援助配慮	評価の観点
9:15	危険のないようゲームボックス・マットを設置する。S字フックを取りやすい場所に置いておく。	*フックスライダース字フックをぶら下げて滑らせてその後ジャンプをして遊ぶ。 S字フックにはおもちゃやまつぼっくりをぶら下げて滑る速さの違いなどを楽しむ。 ジャンプは速くへ跳んだり、掛け声を掛けたりして遊ぶ。  *自由に絵表現をする。	危険がないよう見守る。一緒に掛け声をかけたりしてジャンプの粗大運動の勢いづけをして楽しさを感じられる様子を促す。 S字フックの貸し借りや順番が違ふなどの子どもの訴えがあったら正確に話を聞くようにする。  道具を大切に扱えるよう見守る。	フックにぶら下げる物を工夫して楽しんでいるか。 安全に気を付けているか。 楽しさや探め事が起った時など言葉で伝えていくか。  おしゃべりしながら描いたり、描いた物を教師に伝えたりして描いて表現することを楽しんでいるか。  友達を認めたりして楽しさを共有しているか。  自分の思いを友達や教師に話しているか。 ごっこ遊びの世界の中で言葉のやりとりをしたり役を演じたりして遊びを共有しているか。
	子どもの背の高さで描きやすいように段ボールを貼ってしておく。	*どんぐりころがし どんぐりまわり	転がしたい思いが遊びにつながるよう言葉かけをする。	友達を認めたりして楽しさを共有しているか。
	どんぐりは箱に入れ取り出しやすいようにしておく。転がす的を設置する。	*ごっこ遊び・魔女役・ねこ役・お母さん役・お父さん役など各役に分かれてごっこ遊びをする。	思いの行き違いがあつた時にはそれぞれの思いが話せるよう待つことを心掛ける。必要に応じて助言する。	自分の思いを友達や教師に話しているか。 ごっこ遊びの世界の中で言葉のやりとりをしたり役を演じたりして遊びを共有しているか。
	ごっこ遊びが落ちて着いてできるようコーナーを設置しておく。 役になりきって遊べるようグッズを取りやすい場所に置いておく。			

9:30	室内のおもちゃが部屋いっぱい散らからないように配置を考えたり声を掛けたりする。  山・砂場・水回りと遊びによっておもちゃが取り出しやすいようにしておく。	おはじまり あいさつ 排泄  外で好きな場所を見つけて遊ぶ。  *ケーキ作り 砂をふるったり水を混ぜたりしてケーキを作る。 自然の物を使ってトッピングの工夫を楽しむ。	安全に遊ぶよう声をかける。斜面が怖い子どもには、子ども同士で支えあえるよう声をかける。 怖くてもチャレンジしている姿を認める。 自然の発見に目を向けやすいように声を掛けたり、子どもの声をしっかりと聞き、共感する。	安全に気を付けているか。 どんぐりやしいの実を見つけたら、山の斜面を転ばないよう身体をしっかりと使って粗大運動を楽しんでいるか。 秋の自然を発見した喜びを言葉で伝えあっているか。  話したい・聞いて欲しい気持ちを保持して発言しているか。
10:45		片づけ・排泄 降園準備		
11:15	集まって話やすい・聞きやすい隊形になる。	ふりかえり		
11:30	降園			

9:30	室内のおもちゃが部屋いっぱい散らからないように配置を考えたり声を掛けたりする。  山・砂場・水回りと遊びによっておもちゃが取り出しやすいようにしておく。	おはじまり あいさつ 排泄  外で好きな場所を見つけて遊ぶ。  *ケーキ作り 砂をふるったり水を混ぜたりしてケーキを作る。 自然の物を使ってトッピングの工夫を楽しむ。	目的をもって好きな場所を見つけているか。  用途に合わせて道具を見つけているか。 出来上がったケーキにおいしく、きれいだね。など喜びの言葉をやりとりしていたり、嬉しそうな表情をしているか。	さらさら砂がふわふわ。水を入れたら固まる。など触った感触の違いを言葉にしたりして楽しんでるか。 だんこの形が綺麗。固いよ。など出来上がりの喜びを言葉にしたたり、大切に扱った
	大切なだんごは取り置き、触きからでるようにおいておく場所を用意する。	*だんご作り ふるった土にほどよく水を混ぜてだんご状に丸め砂をかける。	時間をかけ遊べている姿を認める。壊れてしまっても又、再チャレンジできるよう気持ちがつながる言葉掛けをする。	

＜子どもの生活の特徴＞  
 ・排泄の自立に時間がかかる様子であったが、トイレに行くことを拒まず生活の中に排泄することが、自然なこととして浸透してきた。  
 ・衣服の着脱で服を裏返したり、ボタンとめをしたり、お箸の正しい持ち方を目標せるようになつてきて、生活の中の所作が育ってきた。  
 ・気持ちが安定して生活できるようになり朝の登園時から元気に身支度をすませ遊びだせる様子がある。

＜発達の特徴＞  
 ・一人遊びや平行遊びをしている子もいるが、友達とのやりとりがだんだんと活発になってきて遊びの世界を子ども同士で共有して楽しめることもある。  
 ・興味の幅が広く行動範囲がとて広い。  
 ・大きい子の遊びに興味を持ち「作って欲しいな」と伝えに行ったり「○○ください」と働きかけたりして遊びの世界を広げている姿がある。  
 ・「順番が違ふ」「作ったのに潰しちゃった」という関わりの中での不快さを感じるようになり、トラブルになることが増えた。

＜遊びの特徴＞  
 ・誰かが興味を持つと僕も私もと広がり活発に遊ぶ姿があるが、興味があちこちへと移っていく。  
 ・運動会をきかけに体を動かす遊びを好むようになりジャンプをしたり、山登りにチャレンジしたり何度も繰り返し体を充分に動かして満足する姿がある。

＜ねらい＞  
 ・何をして遊びたいのか、教師や子ども同士で会話をしながら見つけていく。  
 ・体を動かして遊ぶ心地よさや楽しさを感じる。  
 ・秋の自然に触れ、発見したり、遊びに取り込んだりして楽しむ。

＜内容＞  
 ・フックスライダース字フック遊び  
 ・山登り  
 ・だんご作り ケーキ作り

＜内容選択の理由＞  
 ・運動会をきかけに高いところからジャンプすることができるようになり満足感を得てS字フックのスライダースとの組み合わせを楽しむ姿が続いている  
 ・砂の感触の違いに興味を持ち、根気よく砂をふるってケーキの土台にしたり、ふりかけたりして遊びが発展している  
 ・山に登ることで虫や木の実などの秋の発見をしたり、斜面登りや下り坂を体を使って楽しんでる。又、山に落ちていたものを砂遊びの中で使って発展させている。









子どもを主体とした保育 公開園 【うみべのもり保育所】

平成 29 年 12 月 7 日 ( 木 曜 日 ) 9 時 15 分 ～ 11 時 15 分

1 歳児 組 (男児 7 名 女児 10 名)  
 担任 國本由美子、三宅萌子、宮田恵子、水口弘美、久保純子、嵯峨根沙耶香

【子どもの生活の特徴】

- <子どもの生活の特徴>
  - 毎日の繰り返しの中で、おやつや給食が運ばれてきたら手を洗う、給食を食べたら口を拭く、午睡から起きたらトイレに行ってから保育室に行くなどの姿が見られる。
  - 排便では、保育士が誘うと便器に座って排便したり、友達の様子を見て便器に座ることを真似たり、逆に座ることを嫌がったりしている。
  - 食事面では、手づかみやスプーンを使い自分で食べようとしていたり、保育士に食べさせてほしいと身振りで要求したりする姿がある。また「ちようだい」とおかわりを要求したり、メニューの中の食材にも「きのこ!」「これは?」と興味を示したりする姿も見られるようになってきている。
  - 衣服の着脱は、保育士の助けを借りながらしようとしていたり、保育士が手を貸そうとすると「自分で!」と援助を嫌がり、自己主張する姿も見られる。

<発達の特徴>

- 保育士との愛着関係を基に、「おんぶして!」と要求を伝えたり、車を指さし「ブーブー」と見つけた物を知らせようとして身振りや言葉で伝えたりするようになっている。困ったことがあると、保育士の側に来て気持ちを訴え、受け止めてもらうことで安心して遊びに戻る姿もある。特定の保育士との関わりを求めめる姿もあり、不安や甘えを受け止めしてもらいスキップを喜んでいる。
- 友達に近付いたり、遊びを真似たりと友達への興味は高まっている。しかし、自分の思いが出てきて他の子に玩具を取られそうになると「○○の!」と激しく拒絶したり、友達が持っている玩具が欲しいと泣いたり叫んだりし、かみつきやひっかきなどのトラブアルも見られる。
- 体のパランスも安定してきて手指を使った遊びをしようとする姿が増えている。

<遊びの特徴>

- 見立て遊び
  - ・ブロックを積み重ねたり、組み合わせた中で偶然にできた形から「ブーブー」「ブーン(ひこうき)」などと言ったり、ブロックを耳に当て「もしもし」と電話に見立て遊んでいる。牛乳パックでつくった列車は、積み上げてみたり、線路を「ガタン、ガタン」と言いながら走らせたりして自分なりのイメージをもって遊んでいる。カラ一積み木をつなげて設置すると、保育室からよく見えるバスに見立て、保育士の歌に合わせて「ゴーゴー」と言ったり、「いってきまーす」と手を振ったり、ハンドルを動かす真似をしたりといういろいろな乗り物に見立てて遊んでいる。

○絵本を見る



手に取った絵本を一人で見てたり、保育士に読んでほしいと差し出したり、一冊の絵本を保育士や友達と取り囲んだり興味をもって見ている。「わんわん」「うさぎ」「だいきん」等と知っていることを言葉で伝えたり、「でておいで」とリズムのある言葉を繰り返して楽しんだりしている。指差しをして保育士が「わんわんだね」と返すと、「わんわん」と確認しながら言葉を真似る姿もある。

○運動遊び



歩行が安定することで、走る、跳ぶ、登る、などの全身を使った遊びをやってみようとしていたり、できたことを喜んで、保育士に手伝ってもらってやってみたり、体を動かす楽しさを感じている姿が見られる。



○バスル、ポットン落とし、ポタンはめなど手指を使った遊び  
 木のバスルは、型にはめただけでなく見立てて動かしたり、ガラス窓の枠に立てたりしている。ポットン落としは、目と手の協応でポットンの口に入れたり出したりをくり返し楽しんでいる。また、きれいな色に魅力を感じてままごとのお皿やポットに集めて満足している姿もあり、月齢によって様々な楽しみ方が見られる。

○ままごと遊び

日々の生活の中で経験しているおんぶや寝かしつけを人形で再現して楽しんでいる。また、電子レンジや洗濯機、冷蔵庫など身近なものを設定すると、ごっこ遊びが広がり、ごちそうを食器にならべたり、「どうぞ」と出したり、「かんぱーい」と友達と飲む真似をしたりとやりとりを楽しみ姿も見られるようになってきている。お気に入りの食器やフーズを持って遊んでいることを楽しむ姿もある。

<ねらい>

- 保育士と一緒に体を動かすことを楽しむ。
- 保育士と一緒に生活や遊びの中で経験したことを模倣したり見立てたりして遊ぶことを楽しむ。

<内容>

- カラ一積み木を乗り物に見立てて遊ぶ
  - ブロック、牛乳パックの列車で見立て遊びをする
  - 絵本を楽しむ
  - 運動遊びをする
  - ままごと遊びをする
- <内容選択の理由>
- 安定して歩行し、体のパランスもとれるようになってきて、様々な道具に興味をもち、体を動かして遊ぶことを楽しむ姿が増えている。登る、下り、跳ぶ、くぐるなど、様々な体の動かし方ができる運動遊具を設定し、全身を動かして遊ぶ楽しさを感じてほしいと考えている。
  - 手指の機能も発達してきてバスルやポットン落としなどに興味をもってしようとしている。安心できる保育士のもとで、模倣の中で目と手を協応させ、指先を使った遊びを十分に楽しんでもほしい。
  - 身近な人の仕事や行動をよく見て、模倣することを楽しむ姿が増えてきている。安心して遊べる保育士のもとで、模倣したり表現したりして保育士とのやりとりを楽しんでほしい。
  - これらの遊びの中から自分で遊びたい場所や玩具を選び、楽しんでほしいと考えた。



時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点
9:15	(前室) * 乗り物に見立てて動かしたり、乗って遊んだりできるような場所を設定しておく。 ・ブロック ・列車 ・カラ一積み木 ・絵本 	○列車をレールの上で走らせたり、つなげたりする。 ○ブロックを積み重ねたり、組み合わせ「ブーブー」と言ったり、耳に当て電話する。 ◎ 「ブーブーやね」に見立てたりする。 ○カラ一積み木をバスや電車に見立てて遊ぶ。 ○読んでほしいと絵本を持ってきたり、保育士と一緒に見ながら「わんわん」と指差ししたりする。	◎集中して遊んでいる様子を見守り、それぞれの見立て遊びを受け止め、一緒に遊んだり、再現しやすい言葉をかけたりする。 ◎ 「ブーブーやね」「もしもし」と子どもの身振りや言葉をも受け止め返したり、「ゴーゴー!」と一緒に歌ったりして楽しむ。 ◎保育者のひざの上で座って眺むなど落ち着いた雰囲気の中で見られるようにする。 ◎一人一人の身振りや言葉を丁寧に受け止め、絵や線り返し言葉と一緒に楽しめるようにする。	◇興味のある玩具や場所を見つけ、遊んでいるか。 ◇見立て遊びの中で思いを身振りや言葉で表現しようとしているか。 ◇興味のある絵本を手に取りじっくり見ているか。 ◇保育士に指差しや言葉で知っていることを伝えようとしているか。
(ほし1)	* 運動遊具を設定する。 ・マットの山 ・トンネル平均台 ・鉄棒、マット ・風船、スズランテープ	○運動遊びをする。 ・マットの山を四つばいや形いい登ったり下りたりする。 ・トンネルを四つばいでくぐる。 ・鉄棒にぶら下がったり、足を上におけたりする。 ・風船に手を伸ばしたり、跳んで叩いたりする。 ・遊具の場所の取り合いになる。	◎登る、下り、跳ぶなど全身を様々な動かしで楽しむ姿を見守り、トラブアルが起きた際には互いの気持を受け止め、代弁しながら安全に遊べるようにする。 ◎保育士も共に体を動かしながら誘いかけてたり、楽しさに共感したりする。	◇保育士や友達に興味をもち、模倣したり体を動かそうとしているか。
(ほし2)	* ゆっくり落ち着いて遊ぶ環境にする。	○バスル、ポットン落としなど指先を使	◎繰り返ししようとしていたり見守	◇集中して指先を使い遊んでいるか。

指先を使った遊び (バスル、ポットン落とし、ポタンはめなど)	指先を使った遊び (バスル、ポットン落とし、ポタンはめなど)	指先を使った遊び (バスル、ポットン落とし、ポタンはめなど)	指先を使った遊び (バスル、ポットン落とし、ポタンはめなど)
* ままごと用の玩具を用意しておく。 ・テーパー、椅子 ・電子レンジ、冷蔵庫、キッチンセット ・お皿、コップ、フーズ ・洗濯機、物干し ・エプロン、三角巾 ・人形、ベツト、布団 ・おんぶ紐	○ままごと遊びをする。 ・お弁当箱にフーズを入れ振って遊んでいる。 ・レンジの中にフーズを入れたり出したりする。 ・フーズをお皿にのせ、「どうぞ」と渡したり、食べたりする。 ・「ジュース」「かんぱーい」とコップを差し出す。 ・洗濯機に服を入れ、洗う真似をしたり、干したりする。 ・エプロンや三角巾を保育士につけてもらうことを喜ぶ。 ・おんぶ紐を保育士に持って行き、「おんぶ、だっこして!」と言う。 ・人形に布団をかけたり、飲み物を飲ませる真似をしたりする。	落ちた音が入った感覚にも気づくことができるように「ぼつとん言ったね」、「入ったね」等の言葉かけをする。 ◎ 「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」などの言葉かけ、再現して遊ぶ楽しさを感じる。 ◎物干しに干しにく入れ振ったり糊に集めたりして遊ぶ。 ◎お弁当箱にフーズを中に入れて遊ぶ。 ◎エプロンや三角巾、おんぶ紐を持つてきた時は「つけるの?」と言葉を加えながら思いに応じて遊ぶ。 ◎ 「ねんねやね」「ご飯あげてるの?」などと言葉をかけ、子どもが見立てたり、再現したりしている姿を言葉にする。	◇スプーンを口元を持って行き食べる真似をしたり、保育士の口元に持って行き食べさせようとしているか。 ◇お弁当箱にフーズを入れ振ったり糊に集めたりして遊ぶ。 ◇保育士と一緒に遊ぶ中で「かんぱーい」と言葉や動作を模倣しているか。 ◇保育士のもとにエプロン、三角巾を持って来てつけてほしいことを行動や言葉で伝えていくか。 ◇人形のオムツを替えたり、ミルクを飲ませる真似をしているか。





子どもを主体とした保育 公開園 【うみべのもり保育所】



○衣装作り  
自分たちで様々な素材の中から選択し、イメージを膨らませながら作っては着て、試行錯誤を繰り返して衣装作りを楽しんでいる。初めは柄に巻きつけるだけの衣装であったが、年長児と何人も一緒に作る経験をする中で手や足が出る場所を考えて切り、より衣装らしいものへと変化した。友達の良いところを認め、同じように作り自分のイメージしたものが作れると満足している姿が見られる。カラーボードを切る際に切りづらかったり、切る場所を間違ったりすることもまだまだ多いがそんな時は友達と相談したり年長児に頼ったり手伝ってもらったりしながら解決している。



○製作遊び  
年長児が作る姿を見に行ったり、年長児と一緒に作ったりすることで、自然物や造形素材を使い作りたいものを作る姿が見られる。こんなものが作りたいという思いから、自分で廃材コーナーや室内の製作棚から必要な物を持って来て楽しんで。素材によっては、はさみで裁くのが難しく、保育者を頼り手伝ってもらってイメージしたものを作ろうとしている。作った作品に思い入れがあり、工夫したところを伝えたい思いが出てきている。それがきっかけで友達と作ったり教え合ったりする姿が見られる。



○戸外遊び  
まごごとでは木の葉や草、葉っぱをすりつぶして作る色水を用いてごちそう作りをする。友達と同じ目的を持って作りたい物のイメージを共有しながら言葉でのやりとりも楽しんで。出来たものでレストランごっこに展開させて遊ぶ。友達と遊ぶことも好きな子どもたちで遊ぶため日々のサーキットが自前にもつながり意欲的に挑戦している。

<ねらい>

- 友達と一緒に役割を決めたり話し合いをしながら遊びをすすめていくことを楽しむ
- 様々な素材を用いて、イメージするものを作ったり工夫したりすることを楽しむ

<内容>

- 役割分担してお話屋さんごっこをする
- 衣装作りをしたり、かわいい部屋・かっこいい部屋で衣装合わせをしたりする
- 子どもたちで話し合い、遊戯座のステージでコンサートを行い遊ぶ
- 自然物や廃材、様々な物を使って遊ぶ
- とっておきの物を作りまごごとごっこなどをして遊ぶ

<内容選択の理由>

○お店やまごごとが好きな子どもたちであったので商店街で八百屋さんでのお買い物体験や、春の枝豆栽培から続く大豆への興味に脚指を付けたことから、豆腐屋さんへ見学に行く機会をもった。遊戯座を見に行ったり豆腐屋さんとお客さんとの言葉のやりとりや調理がなされた。レジンや粘土が必要であることに気付くなど、遊戯座に体験したことで遊びがよりリアルになり内容が深まってきている。豆腐屋さんに見学に行ったこと、味噌作りとつながり、お店もおみそしる屋さんになった。また、女の子の遊戯座さんやクッキー屋さんごっこなどの遊びを楽しみ、友達と一緒にイメージを共有しながら工夫したり、考えたり、すすめていく楽しさを感じてほしいと考えている。

○他のクラスの遊びに興味や関心、憧れの気持ちを抱き同じように真似をして遊ぶ姿が見られるので異年齢や友だちとの関わりを通して一緒に遊んだり作ったり遊ぶ楽しさを感じてほしいと考えている。

平成 29 年 12 月 7 日 (水曜日) 9時15分～11時15分  
4 歳児 そら 組 (男児 14 名 女児 14 名)  
担任 川瀬彩奈 支援 奥田周子 平野佳恵

【子どもの姿】

- <子どもの生活の特徴>  
○自分の話を聞いて欲しい思いが強く、人の話を聞くことを楽しんでいる。  
○日々の生活の中で遊戯座の身の周りのことを自分でしようとしている。しかしまだ抜けていたり出来ないこともあるので保育者を頼りにしてしまいうこともある。友達のことを気にかが手伝う場面もある。
- 時計の文字盤の形を見て活動の節目を意識しながら、見直しを持って過ごしている。

<発達の特徴>

- 仲間意識が芽生え少数でのグループで遊ぶことも増えた。その中で自分の思いを伝えようとしたり、言い方があることで保育者を頼りにしてしまいうことも増えた。相手の気持ちや自分が始め自分たちで解決しようとする。
- 年長児への憧れの気持ちや関心、遊びにも興味を持ち同じようにやってみようとする。
- はさみを使用した製作や、テレビプロダクションなどにも楽しんでいる。しかし個人差もあり苦手な子どももあり、正しい持ち方で使用することがまだ難しい。

<遊びの特徴>

- ごっこ遊び(クッキー屋さん、おみそしる屋さん)  
春から栽培していた枝豆の成長に興味を持ち更に大豆に興味が高かった。大豆の本を見ていた男児が豆腐の作り方を説明したことによって、味噌や豆腐などの加工品が作れることにも興味が高がり、豆腐屋さんへ見学に行き機会を持った。自分たちも大豆で味噌を作りたいという思いがあり、みそしるの屋へと発展した。
- また、粘土遊びの好きな子どもたちは遊戯座などでクッキーやお菓子を日頃から作っていた。そういった子どもの姿が見られたので、紙粘土を用意したところ、作ったクッキーでクッキー屋さんがしたという気持ちになった。
- 自分たちで役割分担しながら展開していくことや、自分の思いだけを通すのではなく、友達にも思いや考えがあることに気づき一緒に相談しながらお店やまごごとをすすめている。
- 豆腐屋さんの見学や八百屋での買い物体験をしたことで、物とお金のやりとりも具体的にになり、よりリアルなごっこ遊びになってきている。そこへ年長児や年少児も加わり、異年齢でも遊びを楽しんでいる。

○ごっこ遊び(コンサートごっこ)

年長児がすすめるコンサートごっこも見ていて、自分たちでもやってみようという気持ちで芽生えた。運動や内容を自分たちで決め、それぞれが動き、まとまることが難しい時もあるが、年長児がすすめていく姿を真似て自分たちなりに形にしようとしている。かわいい部屋、年長こい部屋で衣装を身につけたり化粧をしたりして、イメージを友達と共有しながら、年長児から誘ってもらいコンサートにも参加し、憧れの気持ちを持ち楽しんでいる。



時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点			
9:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが作った食材や看板など作った物を取り出しやすい場所に常時置いておく</li> <li>・作ったもの：クッキー、お菓子、看板、トンガ、おにぎり、味噌、味噌汁の具、箸、飲み物、レジ、お金、飲み物</li> <li>・道具：かご、なべ、おたま、お粥、スプーン、コップ、お店のディスプレイ用の材料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お店やまごごと</li> <li>・今までの遊びの経験から自分たちで相談しながら場所の役割を認める</li> <li>・自分のやりたい役を決めてそれと合わせた準備をしようとする</li> <li>・お店のイメージを友達と共有しながら品物を並べ、役割分担しようとする</li> <li>・自分欲しいものを決めて目的をもち買い物、むかう</li> <li>・今までの経験から店員とお店のやりとりを再現し楽しみたいから品物を購入する</li> <li>・お店作りを認めていくうちには足りない物や必要なものに気づき作り取り取りに行ったりしようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○片付けの時間やお店の閉店時間が意識できるように時計の文字盤に印をつけて、意識できるようにする</li> <li>○子どもたちが相談しながらすすめること、困ったことを認める</li> <li>○友達がしていることに関わりながら一緒に準備ができるようにしていく</li> <li>○友達とイメージを伝え合う姿を見守り、共有しながらお互いの思いに気づけるように関わる</li> <li>○保育者も一緒に楽しみたい</li> <li>○子どもたちのイメージを共有する仲立ちをして遊びを盛り出していく</li> <li>○気づいたことを認めよう</li> <li>○「〇〇したら？」と自分から声をかけようとする</li> <li>○「〇〇したら？」と自分から声をかけようとする</li> <li>○「〇〇したら？」と自分から声をかけようとする</li> <li>○「〇〇したら？」と自分から声をかけようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の実や葉など(どんぐり、まっぼつくり、ひのきの葉、すいりの種、りんごの種、しいの葉)の自然物を分けておにぎりに使ったり、まごごとごっこに使う</li> <li>・戸外に置いてある自然物を補充しておく</li> <li>・友達がしていることに関わりながら一緒に準備ができるようにしていく</li> <li>・子ども用のほうきを部屋に常備しておく</li> <li>・片付けの場所が分かりやすいように入っている道具や材料の写真をおいておく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制作遊び ・作りたいものをイメージし様々な素材を組み合わせて作るようにする</li> <li>・用途に合わせてドヤやグルーガンで接着しようとする、難しい時もあり年長児や保育者と一緒に作る</li> <li>○戸外遊び ・友達と場所を決めて同じ遊びを楽しむ</li> <li>・作った物に自然物を使い飾り付けをする</li> <li>・友達と遊ぶ場所を決めて同じ遊びを楽しむ</li> <li>・作った物に自然物を使い飾り付けをする</li> <li>・友達と遊ぶ場所を決めて同じ遊びを楽しむ</li> <li>・作った物に自然物を使い飾り付けをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが作った物や看板など取り出しやすいようにしておく</li> <li>・子どもたちが相談しながら場所の役割を認める</li> <li>・自分のやりたい役を決めてそれと合わせた準備をしようとする</li> <li>・お店のイメージを友達と共有しながら品物を並べ、役割分担しようとする</li> <li>・自分欲しいものを決めて目的をもち買い物、むかう</li> <li>・今までの経験から店員とお店のやりとりを再現し楽しみたいから品物を購入する</li> <li>・お店作りを認めていくうちには足りない物や必要なものに気づき作り取り取りに行ったりしようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが相談しながら場所の役割を認める</li> <li>・自分のやりたい役を決めてそれと合わせた準備をしようとする</li> <li>・お店のイメージを友達と共有しながら品物を並べ、役割分担しようとする</li> <li>・自分欲しいものを決めて目的をもち買い物、むかう</li> <li>・今までの経験から店員とお店のやりとりを再現し楽しみたいから品物を購入する</li> <li>・お店作りを認めていくうちには足りない物や必要なものに気づき作り取り取りに行ったりしようとする</li> </ul>

時間	環境構成	予想される幼児の姿	保育者の援助と配慮	評価の観点	
10:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで様々な素材を選んで作るようにする</li> <li>・作ったもの：クッキー、お菓子、看板、トンガ、おにぎり、味噌、味噌汁の具、箸、飲み物、レジ、お金、飲み物</li> <li>・道具：かご、なべ、おたま、お粥、スプーン、コップ、お店のディスプレイ用の材料</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お店やまごごと</li> <li>・今までの遊びの経験から自分たちで相談しながら場所の役割を認める</li> <li>・自分のやりたい役を決めてそれと合わせた準備をしようとする</li> <li>・お店のイメージを友達と共有しながら品物を並べ、役割分担しようとする</li> <li>・自分欲しいものを決めて目的をもち買い物、むかう</li> <li>・今までの経験から店員とお店のやりとりを再現し楽しみたいから品物を購入する</li> <li>・お店作りを認めていくうちには足りない物や必要なものに気づき作り取り取りに行ったりしようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○片付けの時間やお店の閉店時間が意識できるように時計の文字盤に印をつけて、意識できるようにする</li> <li>○子どもたちが相談しながら場所の役割を認める</li> <li>・自分のやりたい役を決めてそれと合わせた準備をしようとする</li> <li>・お店のイメージを友達と共有しながら品物を並べ、役割分担しようとする</li> <li>・自分欲しいものを決めて目的をもち買い物、むかう</li> <li>・今までの経験から店員とお店のやりとりを再現し楽しみたいから品物を購入する</li> <li>・お店作りを認めていくうちには足りない物や必要なものに気づき作り取り取りに行ったりしようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが相談しながら場所の役割を認める</li> <li>・自分のやりたい役を決めてそれと合わせた準備をしようとする</li> <li>・お店のイメージを友達と共有しながら品物を並べ、役割分担しようとする</li> <li>・自分欲しいものを決めて目的をもち買い物、むかう</li> <li>・今までの経験から店員とお店のやりとりを再現し楽しみたいから品物を購入する</li> <li>・お店作りを認めていくうちには足りない物や必要なものに気づき作り取り取りに行ったりしようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが相談しながら場所の役割を認める</li> <li>・自分のやりたい役を決めてそれと合わせた準備をしようとする</li> <li>・お店のイメージを友達と共有しながら品物を並べ、役割分担しようとする</li> <li>・自分欲しいものを決めて目的をもち買い物、むかう</li> <li>・今までの経験から店員とお店のやりとりを再現し楽しみたいから品物を購入する</li> <li>・お店作りを認めていくうちには足りない物や必要なものに気づき作り取り取りに行ったりしようとする</li> </ul>



子どもを主体とした保育 公開園 【保幼小連携活動】

水遊びを行った。5歳児も一緒に水遊びを楽しめるように遊びの内容を考え、交流を図った。初めは互いに緊張した様子であったが、相手の分まで準備物を用意してきたり、やりたい遊びをどれにするか相手の気持ちを聞きながら行動したり、少しずつ仲が深まるように感じられた。しかし、まだ自分がやりたいことが優先し、自分だけ楽しんでしまう児童も多く見られた。2回目の「むしをさがそう」や3回目の「たのしいあきいっぱい」の学習では、近くの原っぱや河川敷と一緒に出かけ、季節の草花や生き物を探して触れ合ったり、見つけたもので遊んだりする活動を楽しんだ。自分が興味を持った動植物に向かう時も1年生が5歳児を気にかけてる姿が見られるようになり、ねらいに向けて自分から5歳児に働きかけるだけでなく、5歳児の得意なことを生かして楽しむようにもなっている。

1年生として、連携活動を通して、人とのつながりの深まりを意識したり、適切に接しようとする自分に気付いたりできるように支援していきたい。また、5歳児については、1年生との交流を通して、学校生活に対する期待感が持てるように支援していきたい。

- 6 ねらい
- 1年生
    - 身近にある自然物から使ってみてみたいものを選び、試したり見立てたりして工夫しながらおもちゃを作る事ができるようにする。
    - 友達や年長児と関わりながら、工夫して遊ぶ楽しさを味わったり自分や友達のように気付いたりする。
  - 5歳児
    - 秋の自然物や身近な材料を使って、1年生と一緒に工夫しながらおもちゃを作り、遊ぶことを楽しんだり満足感を味わったりする。

保幼小連携活動指導案

指導者 中筋小学校 1年1組担任 北村 彰子  
 1年2組担任 平松 愛子  
 1年3組担任 加藤 二葉  
 池内幼稚園 5歳児担任 松尾 絵里  
 5歳児担任 久保 佳子  
 なかすじ保育園 5歳児担任 菅浦谷 亜由美

1 対象 A：中筋小学校 第1学年1組 30名・池内幼稚園 さくら組5歳児 35名  
 B：中筋小学校 第1学年2組 29名・なかすじ保育園 きりん組5歳児 13名  
 C：中筋小学校 第1学年3組 29名・池内幼稚園 うめ組5歳児 34名

計 170名

2 日時 平成29年11月13日(月) 第2・3校時 10:10~11:15

3 場所 中筋小学校体育館 中筋保育園遊戯室

4 活動名 「あきのたからものであそぼう」  
 1年生 生活科 単元名「つくろう あそぼう」

5 活動について

本校の1年生は、市内各所の幼稚園、保育園から入学してきた園児が3級に編成されていることから、学級が居場所となるには時間がかかったように感じられるが、2学期ともなると、友達と誘い合って遊ぶことや友達と一緒に学習活動を行うことを楽しむことができるようになってきた。校区は農村地域の名残が周辺地域に残っているものの、宅地が増えていることもあり、子どもたちが自然に触れて遊ぶ機会は、少なくなってきた。

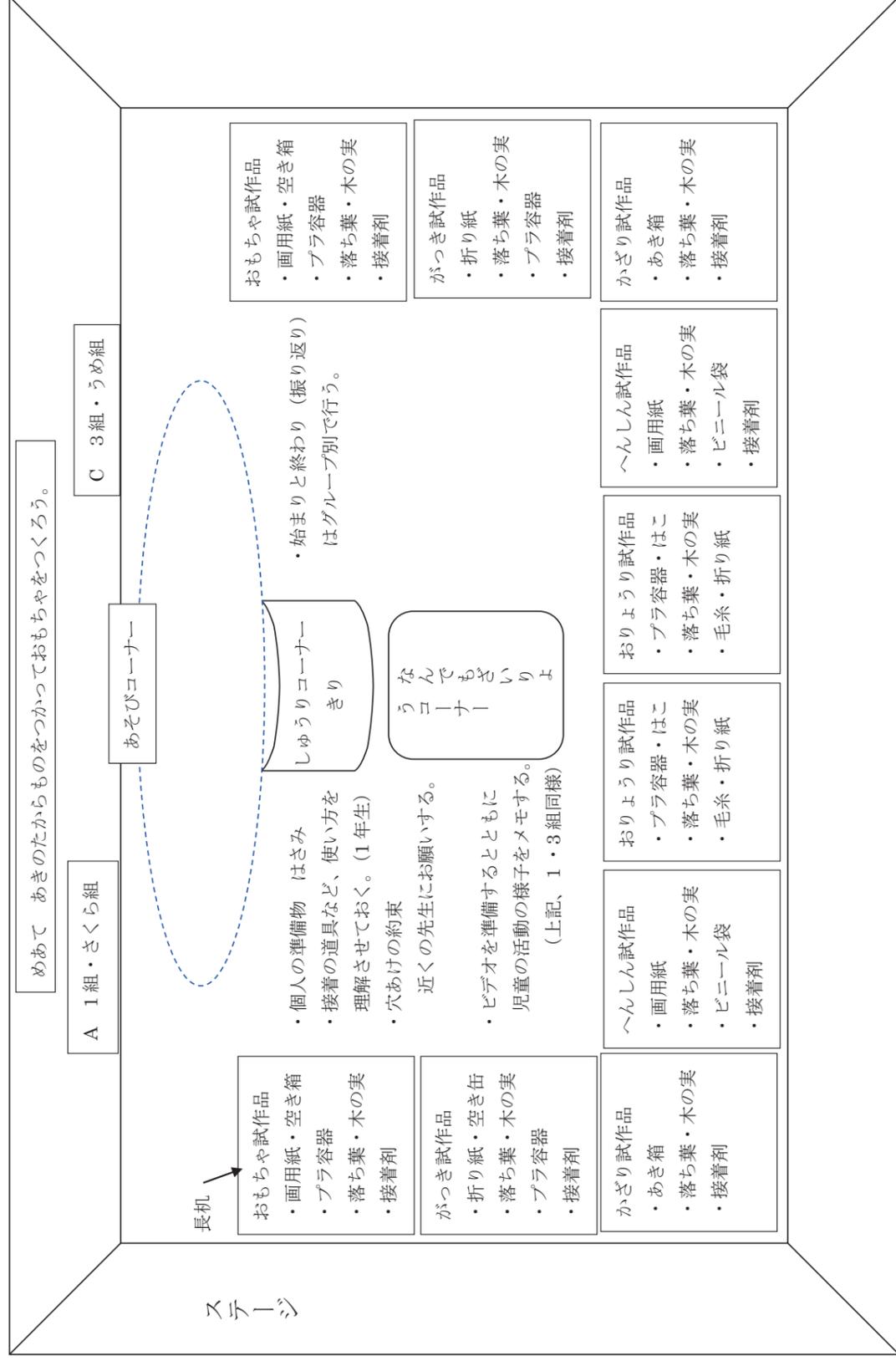
本単元では、身近な自然物や身の回りにあるものを使っておもちゃを作り、季節感を感じたじ物を工夫して作る楽しさを感じたりすることを主なねらいとしている。1年生と5歳児がそれぞれ出かけて集めた自然物や連携活動で一緒に集めた自然物など、どちらも一緒に遊ぶことを楽しみにしながら収集したものを扱うことで、活動に向かう意欲を高めることができると考えている。連携活動が月1回の交流であるので、前もって自分の作りたいものを決め、ある程度の風通しをもって活動に臨めるようにするため、1年生が事前に試作したおもちゃの写真を園に送ったり、園でも事前に秋の宝物での遊びを行った。本時では、これまでのペアを大切にしながらも、個の思いを尊重したり、制作の場所に集まった子どもたち同士とのつながりを大切にしたりしながら、活動できるように見守りたい。また、自分たちで作りたいものを選んで作り出したりすることや、必要な材料を選んで作る面白さを実感できるようにさせたい。

連携協力校・園での交流も今年度4回目になる。1回目は、「なっただあそぼう」の学習を行い、一緒に

7 本時の展開 (小学校 生活科 3・4/9) Aグループ Cグループ

過程	主な活動	予想される幼児・児童の反応		指導上の留意点 (環境構成・援助)	評価 (評価の観点) (評価方法)	
		5歳児	1年生		5歳児	1年生
導入	1 始めのあいさつ	○1年生が準備した物や自分たちが用意してきた物を目の前にして、作りたい物のイメージを広げる。 ・見て、こんな物見つけたよ。 ・すごい！いろいろなものがある。これ、つかいたいな。	○自分たちの試作した物だけでなく、園児の持ってきた物に興味を持ち、作りたい物のイメージを広げる。 ・見たことがあるよ。持ってきてくれてありがとう。 ・集めた宝物をどんどん使ってね。 ・時間を覚えておかなくっちゃね。	○1年生が準備をしているところに準備してきたものを持って園児が合流する。(園においては逆) ○1年生に進行をさせ、活動への意欲と見通しを持たせる。(注意事項は、1年担任) ○活動時間と活動場所の確認をする。 ○5歳児が決めてきた作りたいおもちゃが掲示してある場所へ1年生が案内する、	○自分で作りたいものを選び、選択して行動する。 ○自分から活動を楽しんでいる。 ○分からないことは、保育士や1年生に聞き、自分で作ろうとしている。 ○失敗する中で、1番よい方法を見つけて出そうと、様々な物で試している。	○集めた自然物の中から、使ってみてみたい物を選び、試したり見立てたりしながら工夫しておもちゃや楽器を作っている。(思考・表現)
展開	2 めあてと今日の活動の確認 3 工作遊び	○自然物の色や形、感触の違いを感じながら作る。 ○自分なりに考えたり、友達と相談したりしながら作ることを楽しむ。 ・～を作りたいな。 ○小学校の友達が作っている物に興味を示し、真似して作ろうとしている。 ・これはどうやって作るの？ ・すごい！ ・できるかな、少し難しい。 ・やってみてほしいな。	○自然物の特徴を生かしたおもちゃや遊び方を工夫する。 ・ドラムのパチには大きな堅い木の裏がいよ。 ・オナモミは、毛糸や布にくっつき易いんだよね。 ○年長児や友達が作っている物の材料や用具について自分の意見を伝えている。 ・こつちの方がよくくっつくよ。 ・この大きさの方がピツタリなんじゃないかな。 ・もう少し多くしたらしい音だよ。 ○園児にも声をかけながら一緒に片付けをしていく。 ・一緒に持って行くよ。	○作れそうなおもちゃに合わせて材料と用具を準備し、環境を整えておく。 ○子どもの気付きや楽しさを受け止め、意欲を持って取り組めるように見守る。 ○1年生が年長児を意識して活動できるような声かけをする。 ○子どもたち同士が、困ったことや自分の思いが言い合えるように促す。 ○1年生と5歳児の間を巡回しながら、制作の様子やかかわりを記録する。 ○周りの様子を見て、使わなかった物や用具を元の場所に戻す。 ○出たごみをすてるところまでやり切らせる。	○自分で作りたいものを選び、選択して行動する。 ○自分から活動を楽しんでいる。 ○分からないことは、保育士や1年生に聞き、自分で作ろうとしている。 ○失敗する中で、1番よい方法を見つけて出そうと、様々な物で試している。	○集めた自然物の中から、使ってみてみたい物を選び、試したり見立てたりしながら工夫しておもちゃや楽器を作っている。(思考・表現)
まとめ	4 後片付け 5 ペアの交流 6 ふり返りを促す	○片付け方で分からないことを尋ねている。 ○作ったものを見せている。 ○自分が作ったものを発表したり、楽しかったことやがんばったことなどを手紙や言葉で発表したりする。 ・楽しかったです。 ・一緒に作ってくれて嬉しかったです。 ・お兄ちゃん、お姉ちゃんもまた遊びたいです。	○自分の作ったものを知らせる。 ○年長児や友達のよいところを見つけて褒めたり自分のおもちゃに生かそうとしたりしている。 ・～さんの～のところがよかったです。 ・～を上手につけていました。 ・教えてあげて仲良くできたのがよかったです。	○1年生や友達の発言を聞き、言い方を工夫しようとしている。 ○仲良く活動できたことや気付いたことを評価する。	○1年生や友達の発言を聞き、言い方を工夫しようとしている。 ○1年生や友達の発言を聞き、言い方を工夫しようとしている。	

8 環境の設定 体育館



7 本時の展開 (小学校 生活科 3・4/9) Bグループ

過程	主な活動	予想される幼児・児童の反応	1年生	指導上の留意点 (環境構成・援助)	評価 (評価の観点) (評価方法)
導入	1 始めのあいさつ	5 歳児 ○1年生が準備した物や自分たちが用意してきた物を目の前にして、作りたい物のイメージを広げる。 ・見て、こんな物見つけたよ。 ・すごい!いろいろなものがある。これ、つかいたいな。	1年生 ○自分たちの試作した物だけでなく、園児の持っている物に興味を持ち、作りたい物のイメージを広げる。 ・見たことがあるよ。持ってきてくれてありがとう。 ・集めた宝物をどんどん使ってね。 ・時間を覚えておかないでね。	○園児が集合しているところに、準備してきたものを持って1年生が合流する。 ○活動時間と活動場所の確認をする。(1年担任) ○5歳児が決めてきた作りたいおもちゃが掲示してある場所へ1年生が案内する、	5 歳児 ○自分で作りたいものを選んで行動する。 ○自分から活動を楽しんでいる。 ○分からないことは、保育士や1年生に聞き、自分で作ろうと努力する。 ○失敗する中で、1番よい方法を見つけて出そうと、様々な物で試している。
展開	2 始めのたからものをつかって、おもちゃをつくらう。 3 工作遊び	あきのたからものをつかって、おもちゃをつくらう。 ○自然物の特徴を生かしたおもちゃや遊び方を工夫する。 ・ドラムのパチには大きな堅い木の妻がよいよ。 ・オナモミは、毛糸や布にくっつきやすいんだよね。 ○年長児や友達が作っている物の材料や用具について自分の意見を伝えていく。 ・こっちの方がよくつくくよ。 ・この大ききの方がビツタリなんじゃないかな。 ・もう少し多くしたらいい音だよ。 ○園児にも声かけをしながら一緒に片付けをしていく。 ・一緒に持って行くよ。	○作れそうなおもちゃに合わせた材料と用具を準備し、環境を整えておく。(前日準備) ○子どもの気付きや楽しさを受け止める。意欲を持って取り組めるように見守る。 ○1年生が年長児を意識して活動できるような声かけをする。 ○子ども同士が、困ったことや自分の思いが言い合えるように促す。 ○木の実に穴を開けたい場合は、近くの教師に声をかけるようにする。	○集めた自然物の中から、使ってみたい物を選び、試したり見立てたりしながら工夫しておもちゃや楽器を作っている。(思考・表現) ○協力し合っておもちゃを作ろうとしている。(関心・意欲・態度)	
まとめ	4 後片付け 4 振り返りをする	○片付け方で分らないことを尋ねている。 ○自分が作ったものを発表したり、楽しかったことやがんばったことなど手を挙げて発言したりする。 ・楽しかったです。 ・一緒に作ってくれて嬉しかったです。 ・お兄ちゃん、お姉ちゃんとまた遊びたいです。	○一緒に活動してよかったことを交言する。 ○仲間と活動できたことや気付いたことを評価する。(5歳児担任)	○1年生や友達の見聞き、言い方を工夫しようとする。	

